



# SES Statistical Earth Science International Cooperation Smile Project

## 1. 「SES 国際連携スマイルプロジェクト」その使命

「(SES) Statistical Earth Science International Cooperation Project」(統計地球科学国際連携プロジェクト)は、国際的な連携協力の下で有意義な統計地球科学(晴れ統計科学)の知見を相互に提供を行うことにより、世界市民に笑顔をもたらすプロジェクトです。(これを、「スマイルプロジェクト」と略称します。)



## 2. スマイルプロジェクトの具体的な行動目標

- (1) 世界各国の統計地球科学の知見を**世界市民**に提供します。
- (2) 統計地球科学の知見を**各国語**に翻訳して提供します。
- (3) 世界市民に**笑顔**を提供します。
- (4) **四季**のはっきりした国々（温帯圏の国々）から提供します。
- (5) 世界の人々と連携し、地球の未来創造（**SDGs**）に貢献します。

### 3. プロジェクト行動の具体的な内容と、その理由



(1) このプロジェクトに参加するパートナー企業は、相互に協力し連携して、統計地球科学の知見を世界市民に提供します。

なぜこう規定するのかという理由は、そうすることで、世界中の人（この人々を、世界市民：コスモポリタン：Cosmopolitan と呼ぶことにします）がこのツールを活用出来るようになり、世界市民的利便の提供により笑顔が生まれると考えるからです。

(2) このプロジェクトに参加したパートナー企業は、その国の統計天気ツールの開発を行います。

なぜこうするのかという理由は、その国のツールは、その国の人間が開発を行うのが自然であり、すべての面（社会面・経済面・政治面等）において、不必要な摩擦・軋轢・問題を回避することが出来ると考えるためです。具体的には、そ

の国の製品の管理や翌年の製品開発・メンテナンス等は、その国に住んでいる人間が行うのが自然であると考えます。

(わかりやすく例えて説明すると、USA版を日本人が作っていたとしたら、何か違和感を感じませんか?)

(3) このプロジェクトの中心となる企業は、「日本編」の製作ノウハウ・ライセンス・開発用の専用ツールおよびマクロ等のすべてをパートナー企業に提供します。

なぜこうするのかという理由は、完成された一連のシステムとして導入するため、当該国のツールの完成までの期間が圧倒的に速くなると考えるからです。

(4) 提供されるノウハウ・ライセンス・開発用の専用ツール等のすべては、無料で提供されるものとします。

なぜこうするのかという理由は、パートナー企業の経済的初期負担を軽くし、プロジェクトに参加しやすくするためです。

(5) 開発の際に必要な「日本編」の製作ノウハウ・ライセンス・開発用の専用ツール・マクロ等の使い方のすべてはパートナー企業に提供されるものとします。

なぜこうするのかという理由は2つあり、使い方のすべてをパートナー企業に教え、伝授することが必要だと考えるからであり、当該国のツールの完成までの期間が確実に速くなると考えるからです。

2つ目の理由は、こうすることで連携時の作業内容等が統一され、以後のメンテナンス業務等も省力化とわかりやすさ(安定性)が確保できると考えるからです。

(6) 開発に必要な物理的資源等(PC・OS・関連機材・建物空間・インフラ・人材)は、技術供与を受けるパートナー企業側で用意するものとします。

なぜこうするのかという理由は、これらの開発資源は受益者側負担とすることが、その国内のインフラ整備観点から見ても望ましいと考えられるからです。

(7) 開発する製品は、その国の5地点のデータの収録完了をもって、教習・伝授の一区切りの完了とします。必要な開発期間は約12ヶ月を要すると見込んでいます。

なぜこうするのかという理由は、この開発工程経験と、この開発期間があればパートナー企業の開発スタッフが開発に必要なスキルを習得できるものと見込んでいるからです。

(8) 教習・伝授の完了後も、パートナー企業はオンラインWeb上のやりとりによって、開発上の技術指導や相談を無料で受けることが出来るものとします。

なぜこうするのかという理由は、このような開発工程経験が必ず必要になる場面が出てくると考えるからです。

(9) 製作ノウハウ・コード体系・専用ツールの使用法等の伝授を受けるパートナー企業は、その伝授のために派遣される専門の要員の人的経費は、実費程度を負担するものとします。

なぜこうするのかという理由は、この人的経費は受益者負担とすることが、一般的感覚から見て常識であると考えられるからです。

(10) 製品ツールの完成後、パートナー企業は開発した自国の製品の所有権を持ち、世界に向けて販売を行う権利を持つものとします。

なぜこうするのかという理由は、その国の製品の所有権や販売権は、その国のパートナー企業が持つのが自然であり、すべての面(社会面・経済面・政治面等)において有益だと考えるからです。

(11) パートナー企業は、開発したその国の製品を、連携する第三国のパートナー企業に利用権を提供し、その国の言語に翻訳されて販売される権利を認めるものとします。

なぜこうするのかという理由は、そうすることで、世界市民がこのツールを活

用出来るようになり、世界市民的利便が提供されると考えるからです。

(12) (11) のパートナー企業は、自国の製品を提供した対価に、相手国の言語の製品を提供される権利を持ち、その国の製品を、自国の言語に翻訳して販売する権利を持つものとします。(相互提供の原則)

なぜこうするのかという理由は、そうすることで、世界中の人(この人々を、世界市民: コスモポリタンと呼ぶことにします)がこのツールを活用出来るようになり、世界市民的利便が提供されると考えるからです。

(13) 以上の仕組みにより、プロジェクト参加パートナー企業各社は、経済的な収入を得ることが出来ます。

なぜこうするのかという理由は、そうすることで、プロジェクト参加パートナー企業各社は、持続可能な再生再循環の経済的活動が行えると考えます。

(14) プロジェクト参加パートナー企業は、相互の互選により中心となるリーダー企業を選出するものとします。

なぜこうするのかという理由は、そうすることで、プロジェクト参加パートナー企業各社は、民主的に選ばれたリーダー企業の元で相互の結束と信頼関係を強固にできると考えるからです。

(15) プロジェクト参加パートナー企業は、年1回の総会を開催し、プロジェクト全体にとって重要な問題を協議し、決定するものとします。

なぜこうするのかという理由は、そうすることで、プロジェクト参加パートナー企業各社は、統一的な見解と認識を持ってプロジェクト運営に当たることができると考えるからです。

(16) プロジェクト参加パートナー企業は、自社の開発に必要な人的要員、及び最低限の必要な機材・資材・建物空間は自前で揃えることを原則とするが、必要に応じて応援的提供を受けられるものとします。

なぜこうするのかという理由は、パートナー企業の経済的初期負担を軽くし、プロジェクトに参加しやすくするためです。

(17) プロジェクト参加パートナー企業は、開発する自国の製品について、自国のオリジナリティを持つ必要がある場合は、総会の開催をリーダーシップ企業に要請し、その件をパートナー各社の全員参加により協議し、決定するものとします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、パートナー企業の自国の言語に翻訳されて提供される際に、そのオリジナリティについて周知された上で翻訳提供されるべきだと考えるからです。

(18) プロジェクト参加パートナー企業は、開催される総会に必要な応じオンラインで参加できるものとします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、参加するパートナー企業に加重的・時間的・人的負担をかけないことで、総会運営がスムーズになると考えるからです。

(19) プロジェクト参加パートナー企業は、開発を行った自国の製品を、ソフトウェア製品としてだけでなく、モバイルアプリ形態、電子書籍形態、紙書籍形態、他関連する商品形態に発展させ、販売することが出来るものとします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、パートナー企業の自主性が尊重され、創造的イノベーションが行われやすくなると考えるからです。

(20) プロジェクト参加パートナー企業は、開発する自国の製品について、パートナー各社に有益な技術的進歩を持つコーディング等を行った場合には、その改変内容をリーダーシップ企業に提案し、その内容はパートナー各社の全員により共有されるものとします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、各国における相互翻訳提供がスムーズに行われることが期待できることと、未来に向けての技術的進歩が相互に加速されることが期待できると考えるからです。

(21) プロジェクトにパートナーとして参加しようとする企業は、すでに参加している各企業と、相互にパートナー契約を結ぶものとします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、参加企業相互の権利や責任の負い方が明確になり、プロジェクトの運営がスムーズになると考えるからです。

(22) このプロジェクトに参加するパートナー企業は、相互の親睦・理解・交流・研修・研究を兼ねて、年に1回、いずれかの企業の輪番の主催により、「統計地球科学 研究会」を主催企業の国内で行うものとする。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、各国相互の理解と交流が深まり、研修による「気づき」につながり、プロジェクトの運営がスムーズになるだけでなく、未来イノベーションへの挑戦が活発化されると考えるからです。

(23) このプロジェクトに参加したパートナー企業、及び応援してくれた個人の名は、プロジェクト全体の関係者として世界市民の歴史の中の1ページに書き残し、誰もがそのページを見ることが出来るようにします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、このプロジェクトの進展・達成が加速されると考えるからです。記録を残す具体的な方法・手段・内容については、その段階における参加パートナー企業の協議によるものとします。

(24) このプロジェクトにパートナーとして参加を希望する企業は、公募により選定します。応募企業多数の場合は、リーダーシップ企業を中心に民主的に選定を行います。

なぜこうするのかという理由は、そうすることで、プロジェクト参加パートナー企業を、スムーズに選定できると考えるからです。

また、応募企業が多数の場合は、パートナー企業は1社であることが望ましいが、複数社の連携・分担等が望ましい場合もあるので、リーダーシップ企業を中心に民主的に協議し選定します。

(25) 上記の内容の細部詳細、および上記以外の内容については、今後のプロジェクト参加パートナー企業による検討に委ねるものとします。

なぜこうするのかという理由は、こうすることで、パートナー企業の主体性が発揮されて、プロジェクトの運営がスムーズになると考えるからです。



構想時期 : 2004年

初版作成日 : 2022年03月08日

2版作成日 : 2022年08月01日

Hareka Corporation



Hareka